

◆ 本の世界で出会った感動を伝えよう

第13回 読書感想文コンクール入賞者

【問い合わせ】 上野図書館

☎ 21-6868 FAX 21-8999



第13回読書感想文コンクールに市内の小・中学校、高等学校、一般の皆さんから377点の応募がありました。

審査の結果、特選に選ばれた3人、入選に選ばれた27人と、審査員奨励賞に選ばれた学校を発表します。(敬称略)

【特選】 3人

- | | | |
|-----|-------------------|-----------------|
| 第1部 | 『「伊豆の踊子」を読んで』 | 石橋 容子 (一般) |
| 第2部 | 『「孝和が私に教えてくれたこと」』 | 辻 貴広 (阿山中学校3年) |
| 第3部 | 『「転んでも、大丈夫」を読んで』 | 奥永 翔稀 (青山小学校6年) |

【入選】 27人

- | | | | |
|-----|-------------------|-------------------|--------------------|
| 第1部 | 小林 祥子 (一般) | 中森 千聡 (一般) | 石井 翔也 (伊賀白鳳高等学校3年) |
| 第2部 | 小林 愛奈 (阿山中学校1年) | 北村 迅都 (青山中学校1年) | 福壽 文菜 (上野南中学校2年) |
| | 岩田 涼花 (阿山中学校2年) | 立花 陽菜 (青山中学校2年) | 津田 樹里 (青山中学校2年) |
| | 南 桃愛 (崇広中学校3年) | 竹島 明音 (城東中学校3年) | 米井 由梨菜 (城東中学校3年) |
| | 正戸 鈴夏 (青山中学校3年) | 岡田 ゆめ (青山中学校3年) | |
| 第3部 | 船見 紗英 (新居小学校2年) | 藤崎 香帆 (上野西小学校3年) | 村田 麻陽 (新居小学校3年) |
| | 小澤 咲月 (友生小学校3年) | 久保 杏花里 (壬生野小学校3年) | 棚橋 由惟 (新居小学校4年) |
| | 今岡 蒼輔 (新居小学校4年) | 町井 紀仁 (島ヶ原小学校4年) | 刈谷 友希花 (久米小学校5年) |
| | 古川 柊斗 (長田小学校5年) | 長濱 央起 (新居小学校5年) | 堀 維吹 (阿山小学校5年) |
| | 大河内 璃乃 (成和西小学校6年) | | |

【学校表彰】 2校

審査員奨励賞 新居小学校・青山中学校

◆ 大きな災害に備えて知っておこう

災害廃棄物の処理のしかた

【問い合わせ】 廃棄物対策課

☎ 20-1050 FAX 20-2575



東日本大震災や熊本地震などの地震災害や台風による風水害などの大きな災害が発生した場合、まずは人命救助やライフラインの確保が最優先になりますが、その後は大量に発生する災害廃棄物*の処理が問題となってきます。今回は、そのような災害により発生する災害廃棄物の出し方についてお知らせします。

*災害により使用できなくなった家具類や家電製品、倒壊・破損した建物などがれきや木くず、コンクリート塊、金属くずなど(災害の規模や種類により量や内容は変わります。)

【処理方法】 地区のグラウンドなど地域で決められた仮置き場へ、可能な限り分別して出してください。順次、収集に回ります。

※集積場や家の前の道路へ出すと、救急車やごみ収集車などの通行の妨げとなるのでご注意ください。

～基本的な分別～

木製家具類/金属製品/家電4品目/その他の家電/畳/ガラスくずなど



分別して出すことにより、大量に発生したごみのスムーズな処理につながり、早期の復旧・復興にもつながります。

伊賀警察署だより



1月10日は「110番の日」

110番は、事件や事故にあったり、目撃した際に、警察官に一刻も早く現場に来てほしいときに利用するための緊急通報専用電話です。

◆ 110番通報をするときは

- ①何が ②どこで ③いつ ④だれが
⑤あなたの名前・住所・電話番号
を、落ち着いて伝えてください。



緊急を要しない相談は、警察安全相談電話「# 9110」をご利用ください。また、聴覚に障がいのある人、言葉が話せない人など、電話で110番通報ができない人は次の方法をご利用ください。

○ウェブ110番 <http://mie110.jp>

(携帯電話・スマートフォンから通報できます。)

○ファックス110番 ☎ 059-229-0110

【問い合わせ】

伊賀警察署 ☎ 21-0110

名張警察署 ☎ 62-0110

公共交通を利用しましょう

「JR 関西本線利用促進と電化を進める会」



「JR 関西本線利用促進と電化を進める会」は、地域の活性化のため、関西本線の利用を進め、電化を促進する組織であり、市内の民間企業や各種団体、個人など、官民一体となって運動する組織です。

主な取り組みは、沿線ウォーキングの実施や観光情報の発信、学校など団体利用への補助などの利用促進に係る活動、電化促進や各駅の施設改善、運行ダイヤの改善などの JR への要望活動などです。

関西本線は大切な鉄道路線ですが、利用者数の減少などが大きな課題となっています。こうした取り組みの輪をさらに広げるため、当会では新規会員を募集しています。ご入会の方法など、詳しくは交通政策課までお問い合わせください。関西本線に乗って、鉄道と地域の活性化に繋がしましょう。

【問い合わせ】

交通政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9852

明日に向かって ~差別をなくしていくために~

人権について考えるコラムです。

人権問題地区別懇談会とメディアリテラシー —上野支所振興課—

人権問題地区別懇談会を各地区で開催する意味とは何でしょうか。今は、昔のように生活も仕事も文化行事も全て区内内で完結した時代とは違い、隣の人も触れ合いが減り、周囲の人がどんな考え方の人なのか分からないという状況ではないでしょうか。

人との関わりの中で経験を共有することで、相手の表情などから言葉以上の思いを汲み取ることができると思います。しかし、人と関わる機会が少ないと、その人がどのような人であるかということ自分で判断する力が育たず、流通する情報に依存する傾向にあるように思います。

インターネットなどの情報技術は飛躍的に進歩し、誰でも簡単に不特定多数の相手に向けて情報発信ができます。そのため、真偽不明な情報を適切な判断で取捨選択できず、差別的な情報が蔓延する危険性が高まっていると感じます。テレビやインターネットなどの情報メディアの真偽や重要性を

読み解く力を「メディアリテラシー」と言いますが、その力を育てるには、人との関わりから身につく「判断する力」が不可欠なのではないでしょうか。

例えば、部落差別についてわざわざ教えるから差別がなくなるという「寝た子を起こすな」という考え方がありますが、そもそも、誰の、どんな場面での発言だったのでしょうか。差別を恐れる人が、息を殺して祈るようにして発した言葉だったのではないのでしょうか。そのような人の思いを情報の中から感じ取る力を身につけ、情報を批判的に吟味し、思いを汲み取り、正しく判断することは、人権問題に関わらず情報化社会に欠かせない力だと思います。

そのような力を育てる機会が少ない現状の中で、人権問題地区別懇談会でさまざまな人の思いに触れ、経験を共有するのはいい機会になるのではないのでしょうか。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ